

第87回総合科学技術会議議事録（案）

1．日時 平成21年12月9日（水）14：07～14：48

2．場所 総理官邸4階大会議室

3．出席者

議長	鳩山由紀夫	内閣総理大臣
議員	平野 博文	内閣官房長官
同	菅 直人	科学技術政策担当大臣
同	原口 一博	総務大臣（代理 内藤 正光 総務副大臣）
同	藤井 裕久	財務大臣
同	川端 達夫	文部科学大臣
同	直嶋 正行	経済産業大臣
同	相澤 益男	元東京工業大学学長
同	本庶 佑	京都大学客員教授
同	奥村 直樹	元新日本製鐵（株）代表取締役 副社長、技術開発本部長
同	白石 隆	元政策研究大学院大学教授・副学長
同	今榮東洋子	名古屋大学名誉教授
同	青木 玲子	一橋大学経済研究所教授

4．議題

- （1）鳩山政権下における科学技術関係予算の編成過程の特色（報告）
- （2）平成22年度概算要求における科学技術関係施策の優先度判定等について（報告）
- （3）独立行政法人、国立大学法人等の科学技術関係活動の把握・取りまとめ（報告）
- （4）科学技術関係予算の編成に向けて（決定）

5．配布資料

資料 1 鳩山政権下における科学技術関係予算の編成過程の特色について

資料 2 - 1 平成22年度概算要求における科学技術関係施策の優先度判定等についての概

要

- 資料 2 - 2 平成22年度概算要求における科学技術関係施策の優先度判定等について
- 資料 3 - 1 独立行政法人、国立大学法人等の科学技術関係活動（平成20事業年度）に関する所見についての概要
- 資料 3 - 2 独立行政法人、国立大学法人等の科学技術関係活動（平成20事業年度）に関する所見について
- 資料 3 - 3 独立行政法人、国立大学法人等の科学技術関係活動に関する調査結果（平成20事業年度）（DVD配布）
- 資料 4 - 1 科学技術関係予算の編成に向けて（案）の概要
- 資料 4 - 2 科学技術関係予算の編成に向けて（案）
- 資料 5 科学技術関係予算の確実な確保について（緊急提言）
- 資料 6 平成21年度科学技術振興調整費による「重要施策課題への機動的対応の推進」課題の指定について
- 資料 7 第85回総合科学技術会議議事録（案）

6．議事

【菅議員】

それでは、若干スタートがおくれましたが、時間となりましたので、第87回総合科学技術会議を開会いたします。

総合科学技術会議では、毎年予算編成の前に次年度の科学技術関係予算の重点課題を取りまとめ、それが予算に反映されるように関係大臣に意見具申をいたしております。今回は私、科学技術政策担当大臣と有識者議員が行った来年度の科学技術施策についての優先度の結果と有識者議員が取りまとめた独法及び国立大学の活動の所見を報告し、それを踏まえて来年度の科学技術関係予算の基本的な方向性を決める議論をしていただきます。

それでは、まず議長である鳩山総理よりごあいさつをいただきたいと思います。

【鳩山議長（内閣総理大臣）】

遅くなりまして恐縮でございます。総合科学技術会議の議長でございます。

一言だけ申し上げてまいります。

今、菅科学技術政策担当大臣から話がありましたように、今日の会議におきましては、いわ

ゆる科学技術関係の予算の優先度をどのようにして判定をされるのかということに対してご議論いただきたいと思っておりますが、先般皆様方が新しい試みとしてパブリックコメントを求めて、いわゆる開かれた形の中で科学技術予算の優先度の判定をされてこられたというふうに伺っております。ぜひそのようなご努力を多といたしながら、今日の会議に貴重なご意見を賜って、私どもの予算の限られた予算ではありますが、そのような状況の中で優先度の判定というものをいただいたものを貴重に考えながら、しっかりと行ってまいりたいと思っておりますので、どうかよろしくお願い申し上げたいと思います。

以上であります。

【菅議員】

ありがとうございました。

(1) 鳩山政権下における科学技術関係予算の編成過程の特色(報告)

(2) 平成22年度概算要求における科学技術関係施策の優先度判定等について(報告)

【菅議員】

それでは、早速議題の1及び2に入ります。

このたびの科学技術関係施策の優先度判定につきましては、パブリックコメントの実施により透明性を高めるなど、鳩山政権のもとで新たな取組をいたしております。その取組の概要と関係府省の平成22年度科学技術関係の概算要求について、有識者を中心にヒアリングを行い、最終的に私も参加して優先度判定を行った結果について、相澤議員より報告していただきます。

よろしく申し上げます。

【相澤議員】

それでは、ご報告いたします。

まず、鳩山政権下における科学技術関係予算の編成過程にどんな特色があったかを申し上げたいと思います。

第1点は鳩山政権の重要施策として打ち出された「チャレンジ25」に対応いたしまして、科学技術関係予算の概算要求を「グリーンイノベーション」に重点化してまいりました。

新しい資源配分方針を10月8日に策定いたしましたところ、各府省から直ちに概算要求が行われました。重要政策課題と位置づけたグリーンイノベーションへの要求が前年度に比べま

して27%増となっております。さらに、5つの重要政策課題への要求も大変多くなっております。

第2点は予算編成プロセスの透明化についてでございます。

パブリックコメントを実施し、この結果を優先度判定等に活用いたしました。

また、優先度判定等に当たって実施したヒアリングをプレス公開するとともに、優先度判定等の審議過程をすべて公開し、優先度判定等の責任の所在を明らかにするため、担当有識者議員名を見解に明記いたしました。

次に、資料2-1にあります平成22年度概算要求における科学技術関係施策の優先度判定等をごらんください。

1ページ目ですが、新たな資源配分方針の下に、環境と経済が両立する社会を目指すグリーンイノベーションを最重要政策課題といたしました。

さらに、重点的に推進すべき課題として健康長寿社会の実現等、5つを設定しております。

それから、基礎研究の強化、人材育成の強化等を基盤的課題といたしまして、優先度判定のメリハリをつけるべく実施いたしました。

3ページ目のパブリックコメントの結果をごらん下さい。4,926件という短期間ではございましたが、大変多くのコメントをいただきました。これらをでき得る限り優先度判定等に活用させていただいたわけでありませう。

4ページ目をごらんください。

ここに総括的な見解をまとめております。

まず、科学技術関係施策に対する予算編成に当たって、費用対効果等のコスト意識プラス長期的に科学技術をいかに振興していくかという、この2つの視点で優先度判定を進めました。

「科学技術で世界をリードする」という総理の方針を実現すべく、我が国の中長期的な発展と国民生活の向上ということで、限られた予算等の資源を優先的に投入するという観点を強調いたしました。

次に、最重要政策課題への重点化であります。数多くの要求が出てまいりましたので、この最重要政策課題へエントリーされた要求施策については、評価されています。

各府省に共通する指摘事項を「見解」にまとめております。

まず、トップダウン型の競争的資金については、システム自体を必要に応じて整理及び統合することが必要であること。

府省類似の施策については、整理及び統合をすべきであること。

また、府省連携が必要である点については、さらなる府省連携の緊密化を図るべきことを指摘をしております。

また、総合科学技術会議といたしましても、今後一層府省の連携、緊密化を図るとともに、国民への説明を丁寧にわかりやすくすることを強く意識して、それを実施する体制を採ってまいります。

次のページをごらんください。

優先度判定等の結果でございますが、新規課題についてはS、A、B、Cの4段階判定でございますが、S評価及びA評価、B評価、この比率がほぼ同じぐらいになっておりまして、これが昨年度との大きな違いになっております。

継続課題については、優先、着実、減速の3段階評価でございますが、優先評価がかなり多くなっており、7ページに新規課題と継続課題について、前年度との比較をしておりますが、最重要政策課題に重点化が進んでいることが御理解いただけるかと思えます。

次の8ページをごらんください。

最重要政策課題でありますグリーンイノベーションでどんな施策が取り上げられたかであります。1つは何といても新エネルギー技術研究開発でございます。太陽エネルギー等の自然エネルギーを活用する技術で、2つ目は蓄電複合化システム技術の開発。太陽エネルギー等が各家庭で使われる場合に、発電した電気を蓄電池に一旦ため込まなければいけない。しかし、この蓄電池システムがまだ開発されておられません。その研究開発プロジェクトです。

それから、エネルギー関係についての、強い日米共同研究を進める施策です。特にこれからエネルギー技術については、国際標準化が極めて重要になってまいりますので、協力関係を強化しようという協定であります。

最後のところには実用段階に来ている技術よりももっと先をねらう新しい技術の発掘、これが重要ですので、文部科学省が先端的低炭素化技術開発ということで、新たなプロジェクトを大々的に始めるものでございます。

10ページ目をごらん下さい。健康長寿社会の実現ということで、言葉だけの説明になりますが、先天奇形、その他が急増している実態を解明していく「エコチル調査」、「感染症の国際ネットワーク形成」、それから、「がんの超早期診断等の機器開発」、この3つを代表的なものとして挙げさせていただきました。

最後に1枚紙でございます。以上の優先度判定等に伴いまして、附帯意見という形で出させていただきますので、これは総合科学技術会議有識者議員の名前にしております。

長期的に科学技術をいかに振興していくかという視点が重要であり、このような厳しい状況であるからこそ、我が国の長期的発展にとって科学技術への格段の配慮が不可欠であります。しかし現在の厳しい経済環境においては、高度な政治判断により、厳しい査定が行われることも十分に理解できるところでございますので、今回の優先度判定等の結果がすべて政府の予算案に反映されるということも困難であろうと予測されます。

しかしながら、科学技術の発展を支える人材等の基盤は一度損なわれるとその集積、回復、レベルの向上には極めて長期を要するものでございます。この点を十分ご留意いただき、特に3点のご配慮をお願い申し上げます。競争的資金の活用等による若手研究者及び女性研究者等の人材育成、研究開発活動に不可欠な基盤的経費の確保、多くの研究者が利用する先端分野を切り開く研究開発ツールの最低限の整備・維持、これらについては厳しい財政状況の中でも一定の予算を確保することに努め、将来我が国経済が回復した際の飛躍の準備としておくことが重要であるということをぜひご理解いただければというふうに思う次第でございます。

以上でございます。

【菅議員】

ありがとうございました。

(3) 独立行政法人、国立大学法人等の科学技術関係活動の把握・所見取りまとめ(報告)

【菅議員】

続きまして議題3の独立行政法人、国立大学法人等の科学技術関係活動の把握・所見の取りまとめについて、同じく相澤議員より報告していただきます。

【相澤議員】

それでは、資料の3-1をごらんいただきたいと思います。

今回研究開発活動を行う29の独立行政法人、資金配分活動を行う7つの独立行政法人、国立大学法人86法人、大学共同利用機関法人4法人、独立行政国立高等専門学校機構1法人、これらの法人についての所見を述べます。

2ページ目をごらんいただきたいと思います。

研究開発の活動全体像でございますが、法人の収入は全体で3.3%伸びております。しかしながら、18法人においては運営費交付金が減少しております。この中で6法人は外部資金獲

得により収入は増大しております。

システム上の問題として、若手研究者のポストが常勤から非常勤化されていること、民間資金の収入は全体としては減少しているということを指摘しておきます。

研究開発力強化法に伴いまして、人材の活用等の方針を策定、公表することが義務づけられていますが、まだきちっと履行しているのは半数程度であります。したがって、これまでのシステム改革への取組をさらに強化、加速し、研究開発力の強化に向けて、一層努力すべきであります。

次のページをごらんください。

資源配分活動を行う独立行政法人についてです。若手研究者等向けの資金配分プログラムの拡充及び予算執行の柔軟性の確保については、さまざまなプログラムが展開されておりますが、さらに一層の努力が必要であります。

研究資金の体系化・ルール化については、これをさらに進める必要があるということを指摘しております。

さらに、公正で透明性の高い審査制度への努力がさらに必要であるということを指摘しております。

次に、4ページ目の国立大学法人についてでございます。

運営費交付金は16年度以来さらなる減少が続いておりまして、かなり厳しい実態となっております。これらがどういうところに影響があるかと申しますと、基盤的な設備の整備、それから情報媒体資料等への厳しい影響が見られます。さらに質の高い教育研究環境を整備するためには、基盤的経費への配慮が必要であろうということを指摘しております。

卓越した教員等の確保については、各法人さまざまな努力をしておりますが、なお一層の取組を期待しております。

地域の特性を生かした取組が活発化してきているというところでございます。こういうようなことを通じて、科学技術研究活動の好循環が促進されることを期待いたします。

次のページをごらんください。

女性研究者については、わずかながら0.2%微増しております。わずかながらの増加であります。目標値を設定するなど、さらなる努力が必要であると指摘しており、若手研究者の活躍促進については、いろいろと進んでおりますが、さらに一層のシステム改革が必要であります。

以上でございます。

【菅議員】

この取りまとめに当たって、独立行政法人の部分を担当していただいた白石議員より補足をお願いいたします。

【白石議員】

どうもありがとうございます。

2点指摘させていただきたいと思います。

1つは、独立行政法人、これは29で研究者が約1万5千2百人おりまして、そのうち若手、37歳以下が5,200人、約3分の1でございますが、先ほど相澤議員から指摘がありましたとおり、この若手の中で常勤のスタッフが常勤が減って非常勤が増えている。しかも常勤の中では終身の身分保障のついたポストが減って、任期つきが増えていると。その一方、38歳以上の研究員は増えているという事態がございます。

ついでに大学のほうでも非常によく似たことが起こっておりまして、大学の場合には全教員に占めます若手の比率というのは、平成17年度の23%から平成19年には21%に落ちております。ということは、どういうことかと申しますと、シニアの研究者が優遇されて、若手が冷遇されているということで、これは実は非常に深刻な問題でございます。したがって、若手の研究者についての一般的なサポートは非常に重要で、これはぜひお願いしたいと思いますが、同時に国の研究機関、それから国の大学については、特にやはり若手の処遇ということに注意して進めていく必要があるだろう。これが第1点でございます。

それから、第2点は外国人の研究者でございますが、これは国の研究機関で約6.5%、大学は2.5%にとどまっております。ところがこれから2020年ぐらいを見渡しますと、若手、これは40歳以下、20歳から40歳の日本の人口は20%ぐらい減少いたします。そういう中で、外国からの科学技術人材の取り込みというのは非常に重要になってまいりますが、大学は残念ながらこれについての取り込みは非常に遅いというのが現状でございます。ですから、この点でも国としての誘導措置、インセンティブをつけたような誘導措置が必要であろうというふうに考えております。この2点指摘させていただきます。

【菅議員】

大変重要な指摘で、若手が冷遇されている、あるいは外国人がいろいろな機関で非常に少ないという指摘は、またあと時間が残ったところで場合によったら議論はさせていただくかもし

れません。

(4) 科学技術関係予算の編成に向けて (決定)

【菅議員】

続きまして、先の2つの報告を踏まえ、来年度の科学技術関係予算編成の基本方針となる科学技術関係予算の編成に向けて案を相澤議員より説明いただきます。

この議案については意見交換の後、決定していただき、総理及び関係大臣に意見具申することとしたいと思います。よろしくをお願いします。

【相澤議員】

それでは、資料の4 - 2に本文ございますが、説明は資料の4 - 1で申し上げます。

科学技術の発展によるさまざまな課題の解決が不可欠であります。平成22年度科学技術関係予算の編成においては、研究成果が活用されるまでには長期間努力が必要であるということ十分に配慮し、厳しい経済環境という状況を踏まえつつも、継続的、安定的かつ効果的に科学技術政策を実施することが極めて重要でございます。

このような観点から、必要な科学技術関係予算の確保に努めることと、メリハリの効いた質の高い予算編成に向けた取組を強く求めるものでございます。

総合科学技術会議といたしましては、平成22年度はグリーンイノベーションの推進を最重要政策課題、人の命を大切にする健康長寿社会の実現等、5課題を重点課題といたしました。

さらに、最重要政策課題への重点化ということで、メリハリの効いた予算編成に反映させるため、優先度判定プロセス全体を透明化いたしました。

さらに優先度を明確にした判定を行いましたので、各府省は優先度判定上の見解等を踏まえた予算措置や取組を行うことを求めるものであります。

第3に独法、国立大学法人等への活用状況等についての所見を踏まえた取組。

第4番目に、類似施策等がある場合には、各府省は連携、整理、統合すべきことについて十分検討することを求めます。

さらに、競争的資金の使用ルールについては、でき得る限り統一化を図るべきであります。

第5に、国民との双方向コミュニケーションを促進することによって、施策の意義を十分に国民にわかっていただき、国民から科学技術政策についていろいろなご意見をいただく。こういうことを双方向で進めることを求めるものであります。

このようなことに基づきまして、総理が所信表明で述べられました「科学技術で世界をリードする」、これを実現するために、「環境と経済が両立した持続可能な成長」、「安心して暮らせる質の高い生活の提供」を達成し、国民の要望にこたえることが重要であります。

以上でございます。

【菅議員】

ありがとうございます。

それでは、かなり時間が押しておりますが、残された時間で意見交換をいたしたいと思っておりますが、前回ちょっと大臣が発言できない場面があって、後でクレームがついたりしましたので、今日はちょっと各大臣の中でもし是非という方がありましたら、先にコンパクトにお話をいただければと思います。

どなたかご意見。

どうぞ、川端文部科学大臣。

【川端議員】

文部科学省でございます。

今般、広範なご議論、パブリックコメント等も含めて、こういう報告をまとめていただいたことをまず感謝申し上げたいと思います。

一方、ここにも間接的に触れいただいておりますが、非常に厳しい経済状況にあるということと同時に、事業仕分けという新たに予算編成の透明化を図るという手法も取り入れられまして、効率がいいか等々含めて、ああいう観点でやった答えも先般の会議では予算編成に踏まえるようにという方針も決定をされました。

そういう意味で、私たちとしては、今回の報告をしっかりと後でご了承いただければ受けとめて、まさに正反合のアウフヘーベンする気持ちで、両方の観点を踏まえて、一番いい予算を組めるように努力をしてまいりたいと思ひまして、一言申し上げます。

【菅議員】

ありがとうございます。

ほかの大臣で何かありますか。

それでは、有識者の方も含めてご意見ありましたらどうぞ。

【本席議員】

私京都なものですから、時々京セラの稲盛さんとお話するんですが、稲盛さんの言葉で、大木というのはやがて朽ちて枯れると、そのおかげで太陽の光が若い芽に当たって森が再生するんだと。これは企業の世界もまったく同じだと。つまり若い芽が育つ環境をつくる、これが非常に重要なことなんだと言う意味です。私は国の科学技術政策というのは、常に未来を見つめたものでないといけない。すなわち基礎研究というものを非常に重視した考え方を持っていかなければいけない。

例えば、ご承知のワトソンとクリックがDNAが二重らせんであるということを明らかにしました。五十数年前であります、それが今日の生命科学、バイオ産業、iPSによる再生医療、すべてつながっているわけでございまして、そういう視点を重視していくべきであろうと思います。

技術開発投資と、こういう場合も特に基礎研究が重要で、そこに焦点を当て、若い芽を育てて次の産業をどうやって育成するか、これに対する一貫した施策というのを国としては採るべきであります。総合科学技術会議というのはそういうことに大きな役割を果たすべきではなかろうかと考えております。

ちなみに一言つけ加えますと、先週ロンドンでNIHも含めた主要国政府の研究資金配分機関の会議がございましたが、現在の非常に厳しい経済情勢の中で、ほとんどの主要国、米国、中国、EU、オーストラリア、ほとんど科学技術への投資をむしろ増やしている。特に次の成長分野を支えるヘルスサイエンスにはかなり手厚い投資をいたしております。

【菅議員】

ありがとうございます。

ほかに。

奥村議員。

【奥村議員】

大変厳しい経済情勢の中で、ぜひいい予算編成をお願いしたいと思いますけれども、今回行政刷新会議等を含めて、私は科学技術がいろいろな意味で国民の目に触れたということは大変これは大きな意義があると思っております。本来ですと、私どもはもっと先導して国民の皆さま

んに科学技術のありようを日ごろからお知らせするという仕事があったのだらうと思うのですが、そこら辺りやや忸怩たるものを私個人は感じております。

この研究開発は申し上げるまでもなく、基本的に世界共通で、競争が市場原理になっておりますので、民間の場合は各プロセスの研究開発のプロセスを途中で公開することは秘密上できませんが、国の研究開発は単に予算編成プロセス段階の透明化だけではなく、研究開発を実行している過程で、もっと透明化といいますか、国民に見える化を推進していただきたいと思えます。それを日常的に行うことによって、国民から批判的意見も出、おのずと足腰の強い研究開発が進むというふうに考えておりますので、関係の府省は日ごろの研究開発をもっと国民にわかりやすく説明できるような工夫をぜひやっていただきたいというのが私のお願いでございます。

【菅議員】

ありがとうございました。

ほかにありますか。

どうぞ。

【青木議員】

私はこの中で経済学者なんですけれども、その観点から一言言わせていただきたいんですが、ゲーム理論を皆さんご存じかと思うんですけども、その世界だとみんな自分のことを思って、自分の企業のことを思って精いっぱいやっているんですけれども、社会全体から見ると、本当は共同してもっといい均衡があるのがわかっていても、自分の身近な人とか企業のことを考えているので、そこに行き着けないと。どうやってみんなが本当はあっちのほうがいいなと思っている均衡に到達するかというと、それこそ政治的リーダーシップだと思うんですね。

こういうときこそ、皆さんおっしゃっていることなんですけれども、リーダーシップを発揮して、5年、10年先のことを考えて、リーダーシップを発揮していただきたいと、よろしく願いいたします。

【菅議員】

ほかに。

いろいろ前向きなご議論いただきました。

先ほど相澤先生のほうから資料4 - 2があれですよね。平成22年度科学技術関係予算の編成に向けてというご説明いただいておりますが、これの決定はこの場ですることになっております。

なお、優先度判定は私と有識者議員との会合で既に決定済みということですので、この場にはかけることは必要がないということをご了解いただきたいと思います。

この4 - 2に出ている科学技術関係予算の編成に向けての決定について、いかがでしょうか、決定してよろしいでしょうか。何かご意見ありましたら。

特になければご了解ということでもよろしいでしょうか。

それでは、本案を決定することとし、総理及び関係大臣に意見具申をすることとさせていただきます。

最後に、プレスが入りますので、その間は自由討議という感じで。

(報道関係者入室)

【菅議員】

先ほど本庶議員や皆さんが言われた若い人とか、そういうものを本当どういうふうに、どういう形があるのか、リーダーシップというふうに言われてありがたいんですが、どういうリーダーシップを発揮したらそうなるのかというのをまたいろいろちょっと、我々も政治家としてのリーダーシップというのは多少わかるんですが、そういう若い人とか外国人をどうするというのは、先日も総理のもとにノーベル賞受賞の学者が来られて、特に外国人のことは非常に言われるんですが、なかなか外国人が来て、家族の教育とかまで考えると、なかなか来てもらえないんだという、そういう指摘もされておりました。

【白石議員】

そこを一見無駄に見えても予算を投入して、それで環境整備をし、大学がそれをやろうと思うようにインセンティブをつけていくしかないのだろうと思いますね。

【菅議員】

外国人の研究者をもっと呼ぶようにする。特に大学は少ないと言われておりますね。

【白石議員】

大学は少ないです。2.5%です。非常に少ないです。ちょっと考えられない。

【菅議員】

そうですね。ユニバーシティじゃないですね。

【白石議員】

それで、若手も同じ問題がございまして、放っておきますと、どうしても教授会を構成しているのは年寄りですので、そちらに有利な決定になります。定年が65に延びているんですよ。

【菅議員】

何となく外からは、この会議そのものもそういう有力な方の集まりだから、逆に若手の声が聞こえないんじゃないかという、中にこういう場には皆さん若手を育てなきゃいけないというまさに言っているんですが、何かそこにギャップがありますし、さっき言われた若手が非常勤とかが比率が増えているという、なかなかそういう意味ではちょっと構造的に深刻。

【奥村議員】

深刻だと思いますし、私は企業から参っておりますが、会社の企業の場合、存続性を考えていますから、あるポストであっても若手に置き換えていくということを積極的にやるわけですね。そうした事は大学には余りないと思いますね。

【菅議員】

大学の教授会システムだと、どうしてもやや難しいわけですね。

【直嶋議員】

だから、我々が見る見方というのは、どうしても技術の内容とか、こういう分野とかになるんですが、今のお話を聞いていると、人というのは、そこにどういうふうなそれを相互に入れておくかという、ちょっと人を見る、人を見て科学技術を考えるという、そういう視点が必要になる

【白石議員】

そのとおりだと思います。まさにコンクリートから人になったわけですから。

【直嶋議員】

そこがぜひさっきの議論にある大学の先生方とか、研究機関もあるんですけども、マネージメントの状況がどういうやり方をするかと、結局はなってくるんじゃないかと思います。

【白石議員】

そうですね。

【菅議員】

それでは、最後にもう一度総理のほうから一言ごあいさつをいただきます。

【鳩山議長（内閣総理大臣）】

議長として締めのお礼のごあいさつを申し上げたいと思います。

大変今日は活発な意見交換ができてよかったと、そのように思っております。

まず、議員の皆様方には今までとは違う形で、すなわち国民の皆さんに開かれた形で科学技術の政策の優先順位というものをおつけいただいたと、大変これは新しい試みだと思っております。私どもも事業仕分けというものも行ってまいりましたけれども、それとはまた違う次元ではありますけれども、同じような思想に基づいて行動していただいたことを心から感謝を申し上げたいと思います。

国民の皆さんから見えるような形で、科学技術の重要性というものを認識をしていただくことは大事だと思いますし、また国民の皆さんが参加することによって、こういった科学技術は大事なんだなという認識も深まると、そのように思うからでございます。

今も大変白熱した議論もありましたけれども、特に若手の研究者、なかなか優遇されていない、冷遇されて、さらには外国人の方にも非常に狭き門であるということ、これは他国に比べて大きな日本のマイナスの特徴だと思っております。これを克服しない限り、ある意味で世界で負けない、科学技術において世界をリードする日本というものになかなかかなり得ないと思っております。

したがいまして、今お話がありました、いかにして外国人をもっと日本に招いてでも最先端

の研究をしていただける環境をつくるか、また若手の研究者にどうしても今すぐに答えを出せ
といっても無理だと、しかし5年、10年、必ず時間がたてば花が開く研究もあるんだと、こ
ういった基礎研究に対してもっと力を入れる日本にしていくことが大変重要だと思ってお
ります。

そういう意味で、今日皆さん方が大変貴重な意見を具申をしていただいたと思ってお
りまして、議長としてこのことを大事に受けとめて、予算に十分に反映できるように努力をしてま
いりたいと思っております。

改めて皆様方が貴重なお時間を割いていただいて、お運びをくださいましたことに重ねて感
謝を申し上げます。頑張りましょう。

ありがとうございました。

(報道関係者退室)

【菅議員】

以上で本日の会議を終了いたします。

なお、前回会議の議事録と本日の資料は公表いたします。

本当にどうもありがとうございました。